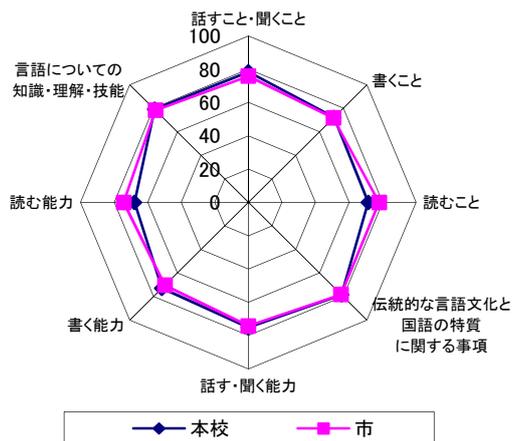


宇都宮市立昭和小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| 領域別 | 項目 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 話すこと・聞くこと | 78.4 | 75.9 | 71.7 |
| | 書くこと | 72.2 | 71.8 | 73.2 |
| | 読むこと | 71.4 | 78.0 | 78.6 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 78.5 | 78.2 | 79.4 |
| 観点別 | 話す・聞く能力 | 75.1 | 74.2 | 70.8 |
| | 書く能力 | 73.0 | 70.4 | 71.0 |
| | 読む能力 | 67.9 | 74.3 | 75.0 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 79.1 | 78.2 | 79.5 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

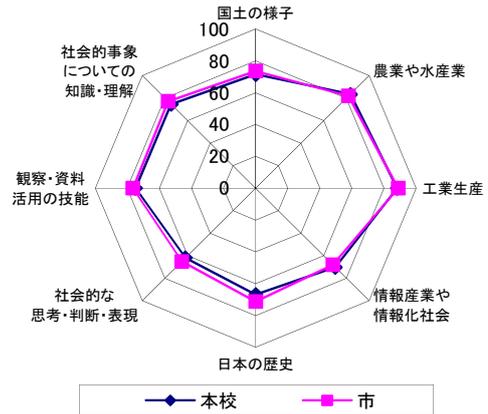
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|--|
| 話すこと・聞くこと | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は78.4%で市の平均を上回っており、およそ身につけていると考えられる。 ○司会者の役割を理解して計画的に話し合うことについて記述式で答える問題では、正答率が64.9%で市の平均より17ポイント高い。 ●話し手の意図や話し方の工夫を考えながら話の内容を聞く問題では、それぞれ93.6%と76.6%であるが、市の平均を下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> 国語の授業だけでなく、日常の学校生活の中で、話し手の意図をとらえながら集中して聞く習慣を身に付けさせていきたい。また、自分の考えと比べながら聞いたり、多くの情報の中から必要なことを逃さず聞き取ったりできる力を高めさせていく。 ・1分間スピーチや係からの連絡などの学級活動の時間を今後も活用し、伝えたいことをわかりやすく話したり、工夫して話したりする習慣をつけさせていきたい。 |
| 書くこと | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は72.2%で市の平均とほぼ同じである。 ○字数や段落の数など、指定された条件を満たして文章を書く問題では、市の平均を前者は6.5ポイント、後者は11.7ポイント上回っており、表記上の理解はすすんでいるといえる。自分の意見を書く問題もほぼできている。 ●グラフから読み取った事実を書く問題において | <ul style="list-style-type: none"> 各教科や特別活動などの様々な学習の場で、目標や振り返り、日記など文章を書く機会を設け、筋道を立てて、箇条書きではなくある程度長く文章を書くことができるように指導していく。 ・グラフや表、地図などの資料から読み取ったこと、また資料から感じ取ったことを、「言語化して文章に表す」訓練を、①読み取ること②言語化すること③文章に表現することというように手順を踏んで指導していきたい。 |
| 読むこと | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は71.4%で、市の平均より6.6ポイント下回っている。 ○物語文の場面の描写の読み取りは、市の平均をわずかに上回っている。 ●物語文では、登場人物の心情を読み取る問題において市の平均より13.2ポイント低く、説明文においては、文章の内容を的確に読み取る問題において、市の平均を20ポイントも下回っている。 | <ul style="list-style-type: none"> さらに読書を励行し、多くの文章に触れる機会を増やし、登場人物の心情や背景を文章の中から読み取っていく想像力を高めさせるような授業の展開を工夫していきたい。 ・説明文の読解においては、段落構成や、指示語、接続語などの読み取る上で手掛かりとなる言葉に着目させたり、意味調べや語句の説明などを通して、語彙を増やしていく学習にも力を入れたりして、読解力を高める手立 |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は73.5%と、市の平均とほぼ同じである。 ●5・6年の配当漢字の読み書きの問題の正答率が市の平均よりも低い。また、熟語の構成についての理解が十分ではない。 ○文の中で主語をとらえる問題においては、正答率が市の平均より5.2ポイント高い。 ○謙譲語や尊敬語の使い方の理解においては、 | <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の中で漢字練習の習慣を定着させ、全学年の漢字の復習をさせる。 ・学期ごとに数回実施する漢字50題テストで、目標点を設定するなどして励みにさせ、意欲的に取り組ませるよう工夫する。 ・主語・述語・修飾語など文の成分を復習させ、口語文法について繰り返し指導して理解を深めさせる。 ・敬語についても学校生活の中で折に触れて正しく使 |
| | | |
| | | |

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 国土の様子 | 71.5 | 73.6 | 76.2 |
| | 農業や水産業 | 83.5 | 81.9 | 77.5 |
| | 工業生産 | 88.3 | 88.9 | 83.4 |
| | 情報産業や情報化社会 | 70.2 | 68.2 | 61.0 |
| | 日本の歴史 | 66.8 | 71.1 | 70.6 |
| 観点別 | 社会的な思考・判断・表現 | 61.9 | 65.1 | 62.1 |
| | 観察・資料活用の技能 | 74.9 | 76.5 | 75.2 |
| | 社会的な事象についての知識・理解 | 74.5 | 77.1 | 76.5 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

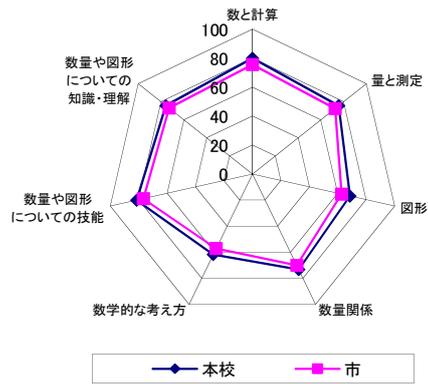
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|------------|--|--|
| 国土の様子 | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は71.5%で、市の平均を2.1ポイント下回っている。 ○日本の周辺の海洋名を答える問題では、正答率が80.9%と市の平均を2.1ポイント上回っている。 ○日本の地形の概要についての理解をもとに資料を読み取る問題では、市の平均を6.6ポイント上回り85.1%と高かった。 ●主な国の名称と位置の理解が市の平均を6ポイント下回っている。また、自然災害についての | <ul style="list-style-type: none"> 我が国の国土の位置や様子や周辺の国、海洋名など、地図やグラフなどで復習していくとともに、資料からどんなことが読み取れるか考えさせ、学習の充実を図っていく。 ・自然災害についての情報や過去の被害、復興への過程など、映像や資料をもとに復習させるようにする。 ・今後も、児童が興味をもって取り組み、知識を定着できるようにデジタル教材、地図等の活用を図っていく。 |
| 農業や水産業 | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は83.5%で、市の平均を21.6ポイント上回っている。 ○日本の主な食糧生産物の分布に関する資料の読み取りは、正答率が市の平均より3.6%上回っている。 ○稲作に従事している人々の工夫や米の輸送などの費用に関して資料から読み取る問題では、正答率が91.5%と高く市の平均を上回っているため、よく理解しているといえる。 ●資料をもとに考える問題では、市の平均を5ポ | <ul style="list-style-type: none"> ・学習に関連したテレビや新聞などの話題を児童に分かりやすく紹介したり、資料を掲示したりして、児童が興味をもって取り組めるような授業の展開を図っていく。 ・日本の食糧生産の現状や課題を時事問題と関連付けながら理解していくことで、現状の変化に目を向け、日常生活の中でも関心をもてるようにする。 ・資料を活用してわかったことや気が付いたことを、社会の授業だけでなく他の教科においても表現させるようにし言語化していく場を数多く設けたい。 |
| 工業生産 | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は88.3%で、市の平均を0.6ポイントとわずかに下回っている。 ●工業製品と国民の生活との関わりについての理解に関する問題では、市の平均を1ポイント下回った。 ●工業従事者の環境保全についての取り組みを資料から読み取って考え、記述によって答える問 | <ul style="list-style-type: none"> ・表や地図、様々なグラフについてそれぞれの資料の特徴を確認し、それらから読み取った情報を文章によって表現する場を多く与える。 ・日本の工業生産について、地図や資料を参考にして特色を考察したり、地域ごとの違いを読み取ったりし、資料活用の技能を高めていく。 |
| 情報産業や情報化社会 | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は83.5%で、市の平均を21.6ポイント上回っている。 ○情報ネットワークと国民生活とのかかわりについて資料を読み取って考える問題では、正答率が80.9%と市の平均を10ポイント上回っていてよく理解できているといえる。 ●放送・新聞などの役割や責任の大きさについて考える問題では、正答率が市の平均を7.6ポイント下回り、59.6%と低い結果であった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に新聞やテレビ、インターネットなどを活用し、世の中の動きなどについての興味を持たせるようにする。また、それぞれのメディアの良さを生かした活用の仕方を考えさせる機会を設ける。 ・情報ネットワークについて、身近なコンビニエンスストアを例にとることで、その仕組みに興味をもって学ぶことができるので、次は医療や公的機関など身近な場所へと発展させて、理解を高め、思考を深められるようにする。 |
| 日本の歴史 | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は66.8%で、市の平均を4.3ポイント下回っている。 ●鎌倉時代から江戸時代までの武士の時代においては、すべての問題において正答率が市の平均を下回っている。資料をもとに複数の提示された人物に共通する点を考える問題では13.6ポイントも低かった。 ○明治時代・大正時代についての設問では、正 | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象の名称や内容について繰り返し復習すると共に、その意図や目的についてまで理解が図れるよう、単に名称を覚えるだけでなく、その他の歴史的事象との関連や時代背景などについても調べさせる機会を設け、理解を深めさせる。 ・複数の資料から共通点を見出したり、自分の考えを述べるために必要な資料を選択したりする活動を継続的に行うことで、社会的な思考力・判断力を高めていく。 |

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 参考値 |
| 領域別 | 数と計算 | 80.1 | 75.6 | 75.8 |
| | 量と測定 | 75.7 | 72.5 | 71.2 |
| | 図形 | 68.5 | 62.8 | 71.0 |
| | 数量関係 | 73.4 | 70.1 | 66.0 |
| 観点別 | 数学的な考え方 | 61.8 | 57.2 | 52.7 |
| | 数量や図形についての技能 | 81.4 | 76.7 | 74.1 |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 75.7 | 73.0 | 77.5 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

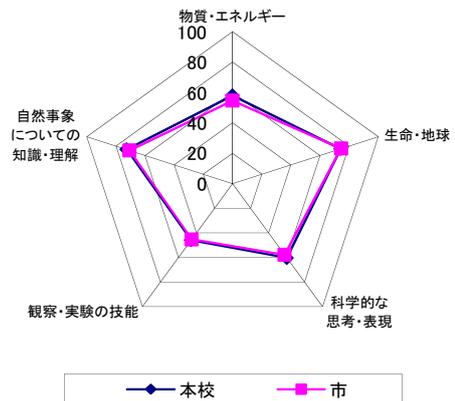
| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|------|---|--|
| 数と計算 | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は80.1%で、市の平均を4.5ポイント上回っている。ほとんどの設問において市の平均より高い。 ○分数どうしをかける通分をする計算では、正答率が市の平均を13.5ポイント上回っている。図を使って文章問題に合った式を選ぶ問題では、9.5ポイント、小数の計算では、問題によって3~7ポイント市の平均を上回っていた。 ●分数の除法の文章問題を表した図を選ぶ問題が、設問の中で唯一、正答率が市の平均を2.5ポイント下回っていた。 | <ul style="list-style-type: none"> 四則の計算については、これまでの学習の積み重ねの成果が実ってきていると思われる。正確に速く計算処理をしようとする意欲やその技能を今後も高めさせていきたい。 ・小数や分数の乗法・除法の問題、2つが混じった計算では、日頃の学習の成果が表れている。さらに計算の技能を高められるように、練習問題を用いて繰り返し学習し、定着を図っていく。 ・文章題に重点的に取り組ませ、正解を求める過程を図や表で表すようにし、内容に合った正しい式が立てられるようにする。 |
| 量と測定 | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は75.7%で、市の平均を3.2ポイント上回っている。 ○単位量当たりの大きさや速さに関する問題では、すべての設問で市の平均を上回っている。単位の換算をしながら速さと時間から道のりを求める問題では市の平均を15ポイント上回る結果となった。 ●面積と体積に関する問題では、台形の面積を求める問題の正答率は市の平均を上回っているものの、高さが図形の外にある三角形の面積を求める問題の正答率は市の平均を下回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単位量当たりの大きさや速さについての学習では、5年生の既習事項と絡めながら、また、「速さ」については、単なる公式の暗記ではなく、どのように速さの公式が導かれるのかを考えさせる学習を取り入れたことが功を奏したと思われる。今後も算数の授業において、実感を伴った理解が得られるような指導の工夫を続けていきたい。 ・面積や体積では実物で量感を感じたり操作したりしながら公式を求める学習を進めていくなど、今後も操作的な学習を進めて公式を導き出させ、理解を確実にしていきたい。 |
| 図形 | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は68.5%で、市の平均を5.7ポイント上回っている。 ○合同な三角形を作図では、正答率が100%であり、十分に理解できているといえる。 ○円の直径から円周を求める式を選ぶ問題の正答率は74.5%と市の平均を28.2ポイント上回った。 ●線対称な図形、点対称な図形を選ぶ問題においては、正答率が市の平均を下回る結果であった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・作図については、用具の正しい使い方や手順を繰り返し練習させ理解を深めてきたが、今後も復習により定着させていきたい。 ・円周を求める問題では、半径と直径、円の面積と円周の概念についての理解を図り、操作活動を通して公式の意味を理解させてきたが今後もいろいろな問題に取り組ませてさらに定着させていきたい。 ・対象な図形では、具体物を測定したり操作したりする活動を取り入れながら図形についての理解を進められるよう、様々な図形や生活場面で、図形を見る感覚を養って |
| 数量関係 | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は73.4%で、市の平均を3.3ポイント上回っている。ほとんどの設問において市の平均より高い。 ○文字の式、比例・反比例、割合と比に関する設問では、すべての設問において正答率が市の平均を上回っていた。比例の関係を立式する問題では、正答率が91.5%、反比例の立式でも89.4%と9割近くになっており、ほぼ理解ができているといえる。 ●比の値を使って必要な量を求める方法を記述により説明する問題では、市の平均を3.7ポイント上回っているものの、正答率が39.4%と低いことから、考え方や表現力が充分身につけていない | <ul style="list-style-type: none"> ・比例、反比例や、割合、比などは、日常生活のいろいろな場面で使われているので、実際の場面を通して理解を深めさせ今後も定着を図っていきたい。 ・文字式についての学習は、中学校の数学につながっていくので、練習問題を数多く解くなど復習に努め今後の学習を積み重ねていけるような基礎として定着させていきたい。 ・問題文を、実際の場面に置き換えてイメージし、問われている内容をつかみ、考えたことや解答を導いていく過程を、言語化したり、数直線や図にあらわしたよりすることによって、表現していける力を養わせたい。 |
| | | |
| | | |

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

| | 本年度 | | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | 本校 | 市 | 参考値 | |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 58.0 | 54.6 | 57.5 |
| | 生命・地球 | 74.2 | 74.5 | 75.4 |
| 観点別 | 科学的な思考・表現 | 60.3 | 58.0 | 59.6 |
| | 観察・実験の技能 | 46.0 | 45.3 | 50.6 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 72.6 | 70.7 | 72.4 |

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------|---|---|
| 物質・エネルギー | <p>・平均正答率は58.0%で、市の平均を3.4ポイント上回っている。</p> <p>○電流のはたらきに関する問題では、すべての設問において市の平均を上回る結果であった。物の燃え方についての問題でも、燃焼中の空気の流れに関する設問の正答率は市の平均を4.5ポイント上回り95%を超え、十分に理解できているといえる。</p> <p>●水溶液の性質に関する問題では、正答率が20%に満たないものもあり、正答率が低かった。</p> | <p>・学習した内容を、日常生活の中の物質に置き換えたり具体的に考えさせたりして、事象の仕組みや関係を考えていく力を育成していく。</p> <p>・実験した内容や知識でよく身に付いている内容とそうでない内容があるので、既習事項も実験ごとに確認し、十分身に付くようにしていく。</p> <p>・今後も児童が興味をもって取り組めるような授業の展開をしていくと同時に、実験結果を予想させたり、実験結果から考えられることをまとめたりさせる活動を通して、科学的思考を養っていく。</p> |
| 生命・地球 | <p>・平均正答率は74.2%で、市の平均を0.3ポイント下回っているが、ほぼ同等だと言える。</p> <p>○生物と環境に関する問題は、正答率も高く市の平均を上回っている。太陽と月と地球の関係についても正答率が8割でありよく理解できていると言える。また、孵化したばかりのメダカの栄養に関する問題でも、正答率が市の平均を10ポイント上回っている。光合成について記述で答える問題でも市の平均を上回っていた。</p> <p>●動物のからだのつくりとはたらきに関する問題では、正答率がすべての問題で市の平均を下回っていて、腎臓についての問題では、市の平均より5.9ポイント低い42.6%であった。心臓の位置や腎臓についての理解が充分でないと言え</p> | <p>・授業中での考察を考えて書いたり、グループで話し合ったりする活動を今後も多く取り入れて、筋道を立てて考え、その過程を言語化するようにしながら、科学的思考を養っていききたい。</p> <p>・体の仕組みや血液など、実際には観察できない教材もあるので、デジタル教材を使ったり、児童に図や絵や表などに表現させたりして理解を深めさせていく。</p> <p>・授業においても、ミニテストを行いながら学習内容を確認して基本的な知識の定着を図っていくと同時に、自然や生活の中の事象について、自分で考えたり文章で表現したりする時間を取り入れ、思考力を育成する。</p> |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |